

「北極圏旅行記 2017 夏 (33)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

～8/2・3 ロバニエミから帰路へ～

ロバニエミはフィンランド中北部の中核都市で、サンタクロース村があるので、夏でも観光客が多い(特にヘルシンキへの直行便がある、日本、韓国、中国から)このような事情と、ユーロ圏のフィンランドはもともと物価が高いこともあって、ロバニエミの宿泊施設は、どこも非常に高い。



予約したキャビンも、今回の旅行中最高金額で、1泊30000円近くかかった。最高8人まで泊れるので、大人数で利用すればお得かもしれない。このロッジも何度か利用している。料金はネットで前払い、キーは暗証番号でゲット、チェックインもチェックアウトも手続きなし・・・というお手軽さがむしろ有難い。



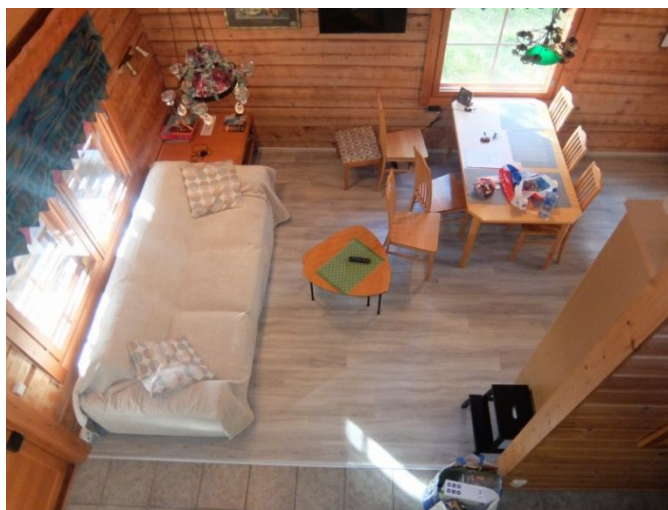
さすがに部屋はきれいで、清潔。このタイプの部屋が2部屋あって、ツインにもダブルにもできる。



ロフトも非常に広く、ダブルベッドが1台に、子ども用のエキストラベッドもある。



フィンランドのキャビンは、サウナ付が常識だ。ここにも立派な「プライベート・サウナ」があり、一度に5人ぐらい入れそうだ。



ロフトから見た吹き抜け。下階は暖炉付きの居間と、ダイニングキッチン。1週間ぐらい滞在したい。



この別荘地には、このようなキャビンが全部で36棟ある。予約時にメールで構内地図と、宿泊棟の番号、それにキーボックスの暗証番号を送ってもらえるので、何も心配はいらない。



別荘地内の遊歩道。自然豊かで、常にどこからか野鳥の声が聞こえる。ノウサギも人を恐れず、私のすぐ近くで草を食べていた。



北極圏最後の晩、街の酒屋で酒類を仕入れ、となりのスーパーでステーキ肉を爆買い、その他「寿司」「チーズ」「ハム」などを買い込み、最後の晩を「爆食い大飲みパーティー」で過ごした。



翌朝の早い飛行機で、ヘルシンキに向かった。ロバニエミの地理にもすっかり慣れて、上空からでも建物を識別できる。これは「ラップランド大学」。



最後に満タンにする為に、ちょっとだけ（3ユーロ分）ガソリンを入れたスタンドも、よく見えた。